

対岸の華事 中国WATCHING

Vol.8 2012.7.7

北京っ子が外から祖国を見る



今月のトピックス：

「変化しつつ・伝統行事」

七夕（チーシー）



「伝統行事」

旧暦の7月7日は、中国伝統的な祝日七夕です。

七夕の起源は二千年ほど前の漢の時代からとされています。その後、唐と宋の時代に流行し、永い歴史を持つ中国伝統行事の中で最もロマンチックな祝日です。2006年に中国国務院が七夕を初の国家級非物質文化遺産に登録し、今後も伝統的な歴史祝日として保護することに取り組んでいます。

「ロマンチックな伝説物語」

中国の伝説では、七夕（旧暦7月7日）の夜空を見上げると、彦星（牛郎星）と織姫（織女星）が天の川で出会うのが見え、瓜棚の下から星を眺めると、二人のロマンチックな愛のささやきが聞こえるといわれています。さて、その伝説はどのようなものでしょうか。

昔、牛家庄という村に一人の青年がいました。彼は幼い頃に両親と死別して、兄夫婦と3人暮らしていました。毎日牛の世話や番をしていたので、人々は彼を牛郎と呼ぶようになりました。

ある日、牛郎は牛を連れて草原に餌を食べさせに行きました。木陰でうつらうつら眠りこけていると、夢の中で牛が話し掛けてきました。「牛郎、明日七人の天女が森の奥の池で水浴びをする。天女の1人は天帝の許しを得て下凡（下界の人間になること）する予定なので、木の枝にかかっている天衣を奪ってしまえばもうその天女は天界に戻れない、おまえはその天女と結婚しなさい。」と彼に言いました。

翌日、牛郎は牛に言われた通り、七人の天女の中の織女の天衣を隠して、予言通りに夫婦となりました。牛郎は牛を連れて畑仕事をし、織女は機を織る。二人は普通に幸せな生活を営み、二人の子供にも恵まれました。

実はこの牛は金牛星が生まれ変わって人間界に出現した牛なのでした。月日はたち、牛がまた牛郎に「織女の下凡は明日でちょうど7年目の満期になるので、天帝の命令によって天界に帰らなければならない。だが、一つだけ連れ戻す方法がある。私（牛）を殺して皮をはぎ、明日、織女が天に昇るとき、その皮をかぶって子供達と共に追いかけるのだ。うまく捕まえられれば連れ戻すことができる」。そう教えると牛は自ら岩に頭をぶつけて死んでしまいました。牛郎は泣く泣く牛の皮をはぎ、子供達を乗せるための二つの籠と天秤棒を用意しました。

翌朝、織女は今まで織った機を牛郎に手渡し、涙ながら二人の子供に別れを告げました。織女も天帝の命令に逆らうことができません。子供の手を振り解き天に昇って行こうとすると、牛郎は用意した籠に子供を入れ天秤棒で担ぐと、牛の皮を着て追いかけました。もう一息で手が届くその瞬間、王母娘（天帝の妻で織女の母親）がかんざしで二人の間に線を一本引きました。それが「天の川」となり、二人を東西に引き離してしまいました。

二人の悲しむ姿を見かねた「喜鵲（かささぎ）」は毎年七夕の日には群れとなって自らの体で「喜鵲橋」を作り、牛郎と織女をこの橋の上で再会させることになりました。

七夕の夜空を見上げると、天の川の東に三つ並んだ星があり、真中の一番明るいのが牛郎星で、その両脇の小さな星が二人の子供だそうです。天の川を挟んだ西側には織女星が輝いています。

「七夕は今、中国のバレンタインデー（情人節）に変化しました」

牛郎と織女の悲しいラブストーリーが長い年月を経て、現在、中国のバレンタインデーに変化しています。毎年、七夕の1ヶ月前から中国各都市のマーケットはさまざまな若者向けのセールやキャンペーンが大いに企画され、恋人同士が贈る生花、チョコレートなどの豪華ギフトも至る所に飾られ、人々の注目を集めています。

また、七夕の夜空を見るためのムードを盛り上げるロマチックなディナー、小旅行、映画&番組ショーなども多数用意されています。さらに、若い男女なら誰でもこの七夕の日に愛する相手に告白して、幸せを掴もうとしているので、そんな二人の願いを叶えるよう、オリジナルのお見合いパーティーやプロポーズ、結婚式など独特な企画を手かける業者も話題になっています。七夕の一発勝負にかける中国の

若者には、これらの企画が「熱烈的」効果を生じて、多くの七夕カップルが生まれているようです。

「七夕、日本と中国はどう違いますか？」

	日本	中国
名称	七夕（たなばた）	七夕（チーシー）
時期	新暦7月7日	旧暦の7月7日（新暦8月6日）
起源	奈良時代頃に、中国から宮中に伝わり、江戸時代に民間に広がった。	2000年ほど前の漢の時代からと言われている。その後、唐と宋の時代に流行した。
祝い方	願い事を書いた短冊を笹の枝に飾ります。また、浴衣を着てお祭りに参加し夏の夜を楽しみます。	バレンタインデーとして祝う。

